



まつかやま

①松岳山古墳

松岳山古墳は、全長 130mの規模の前方後円墳で、河内の有力首長層の墳墓です。埋葬施設のある後円部頂は、板石を石棺の周囲に密接して積み上げ、竪穴式石室と墳頂部を高く造りあげた特殊な構造をしています。

現在露出している石棺は平らな板石を組み合わせたもので、内面には朱を塗り、底石には枕の形も彫りだしています。石棺には香川県から運ばれた凝灰岩が使われています。

周辺部に小円方墳が倍塚として築かれ、出土した三角縁神獸鏡や碧玉製齒車形石製品は重要文化財として指定されています。また、日本最古の墓誌、国宝「船氏王後ふなしおうこのおひとほし首墓誌」はこの丘陵から出土したと伝えられています。



②国分神社

国分神社の祭神は大国主命、少彦名命、飛鳥大神で、古書や口伝等によれば鎌倉時代の建立とあります。明治5年に村社に列し、明治40年に杜本神社を合祀しています。境内には松岳山古墳があり、社宝として漢鏡3面が重要文化財に指定されています。



③河内国分寺跡

天平13年(741年)、聖武天皇の詔勅により全国に国分寺が造営されました。河内国分寺は、河内と大和の国境近く、大和川を北に見下ろす山腹に立地しています。昭和45年(1970年)の発掘調査により、塔基壇は凝灰岩壇上積で高さ1.5m、一辺約19mを測る壮大なものであることがわかりました。塔跡は復元整備され、塔基壇は地下に保存されています。



④田辺廃寺跡

田辺は百済系渡来氏族「田辺氏」の本貫地でした。その田辺氏の氏寺として「田辺史」により創建された寺院が「田辺廃寺」と呼ばれている古代寺院です。

昭和46年(1971年)に実施された発掘調査により、金堂、東塔、西塔、南大門が確認され、7世紀末ごろに建立された薬師寺式の寺院であったことがわかりました。塔は東西両塔ともにその基壇の規模から三重塔であったと考えられます。



⑤国分本町の町並み(旧奈良街道)

大坂(大阪)と奈良を結ぶすべての道を「奈良街道」と呼び、柏原を通る道は「亀瀬越」あるいは「亀田越」と呼ばれていました。写真は大和川にかかる国豊橋のたもとから南東にのびる旧奈良街道に沿った国分新町の様子です。このあたりは寛永16年(1639年)の剣先船(国分船：大和川を航行し、国分と大坂市中の間の荷物を運んだ)の創業とともに町並みが発展しました。

国分は国分船の荷揚げ場として、また旅館が立ち並ぶ宿場として栄えていました。今もその面影を残す建物が街道筋に残ります。



春、桜が満開の河内国分寺跡